

# パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2010年11月1日

86号



青年達、泥田で魚つかみ取り。 第二農園の入り口近くの池の水をポンプで汲み上げた後、泥田に 青年達が入り、カスクード、うなぎなどを捕まえました。



## レダに滞在する青年達への特別研修会

(十月一日～十一月九日)

### 研修目的

一・青年がレダの開拓活動を体験することによって、奉仕精神(ために生きる)学ぶ。

二・レダ開拓を担う後継者を目指す。

・対象者：古市、平野、西川、佐藤（4名）

### スケジュール

三日研修「レダ開拓の意義と目的について」

第一週 農業、牧畜、養殖  
第二週 トラクター運転、水作り、植樹園&庭園管理、建物管理（掃除）

第三週 釣り、乗馬、インディヘナ村訪問の準備

第四週 インディヘナ村体験交流（植樹等）

第五週 パラグアイ・ツアーエ（スペイン語学習）

青年達は第一ラウンドから大山組で、支流奥レテロの近くで、三四日前に死んだ牛が異臭を放つて、黒い剥げ鷹も何羽もたむろして来ている為穴を掘り葬つてあげる作業でした。第二ラウンドは、昨日に引き続き第二農場で、水草の処理、が行われました。かなりの力仕事ですが、懸命に頑張つてくれました。昼前に突然雨が降り出し、皆濡れながら帰つてきました。

午後は休むように指示しましたが、大山、大和田先生達の為のロッカー組み立てで頑張つてくれました。

毎晩報告反省会を成し、感想文も書いてもらっています。

九月の頃はどうなるのか心配の向きが多かったのですが、十月一日から三日修成し、四〇日研修で新しい出発を成し、今では皆前向きな姿勢で、これからが楽しみになつて來ました。（飯野先生記）



四名の青年研修実践の第一日、二日は、上山、大山組みの傘下で、第二農場の入り口近くの池が、数年放置されて、水草で覆い尽くされた為、水草撤去を成し、イケスの一部として利用できたらということで作業が行われました。

最初、鍬で水草を池の中から引き上げようとしましたが、繫がつていて、根っこが水と泥をしつかり含んでいる為、余りに重く、能率が悪いことになりました。魚と共に蛇も住んでいるので、素足で入るのに躊躇わかれますが、現地労働者は手慣れたと云ふことで、ロープを水草に巻き付けてトラクターで引っ張り上げることにしました。魚と共に蛇も住んでいます。勇気があるというか、ぬかつた池に入つて行きます。ボートも出でます。やはりトラクターは力があり、見事に水草引き上げ成功でした。

飯野先生より

『朝からエスペランサ村へ、上山、伊達氏と私の三人で行つて来ました。十月末に研修の青年四人をインディヘナ村への奉仕に行くため、その準備の打ち合わせに行つて来ました。村長と逢い、いろいろ話し合った結果、以前ボランティア隊が植樹した公園内のダメになつた二树木の木の植え替えと、新たに園内に二列植樹することで合意、40本程穴を掘つて準備してもらうことにしました』



VISITAN PARAGUAY PARA CONSERVAR NUESTRO AMBIENTE

# **Universitarios japoneses realizan obras sociales**

*Lejos de preferir la calidez de alguna playa del Caribe o visitar los atractivos turísticos de los países desarrollados, un grupo de universitarios japoneses optaron por visitar nuestro país para ayudar a comunidades indígenas del Chaco y plantar arbolitos en la ciudad de Mina Guazú.*



**En Minga Guazú, la delegación japonesa plantó arbolitos con las autoridades de la ciudad. Los nipones vienen cada año a nuestro país para realizar este tipo de trabajo.**



**Los universitarios japoneses junto con los indígenas de la comunidad de 14 de Mayo pintan una de las paredes de**



**Antes de  
retornar a su  
país,  
estuvieron  
por nuestra  
redacción  
para  
comentar las  
anécdotas  
que vivieron**

## Inauguración Virgen

La comunidad barrio Pettrossi este miércoles un a su patrona. Responsables construcción se El objetivo fue adicionales para

日本の大学生が社会奉仕活動我々の国の環境保護の為にバラグアイを訪問カリブのリゾート地や、西欧のツーリスト向け娯楽施設を訪れるのではなく、日本の学生のグループはチャコの原住民コムニティを助け、ミンガグアスの町に木を植えるために我々の国を訪れた。

西暦二〇〇〇年より、南北米福地開発財団は日本の学生たちをバラグアイに招待し、社会奉仕活動、特に原住民コムニティに対する援助を行ってきた。過去においては、学生たちはパラグアイ川沿岸の原住民に対して学校を建設し、彼らのコムニティに対して植林を行ってきた。

今年は、アルト・パラグアイ州の14 de Mayoを訪  
れ、そこの子供たちと一緒に学校のペンキ塗りを行  
い、彼らと植樹をし、文化交流をなした。学生の  
一人、石村聰史氏は、“言葉の壁があつたにもか  
かわらず、ジエスチャードで会話をなし、彼らは  
我々を彼らの家まで連れて行つてくれ、厳しい環境  
の中でどのように住んでいるかを見たその体験  
は他では得られない忘れられない体験となつた。”  
と語つた。

力トレセマジョ村から次にバイアネグラに行  
き、現地の青年たちと植樹をなした。そこで一  
日間滞在し、その後、ペルトレダに向かい、そ  
こで始めて川に入つて体を洗つた。



この体験は、日本の青年たちにとつて印象的なものとなつたようで、彼らの多くが、日本にいる友人にこの体験を話したいと語つた。

チャコでの様々の活動の後、アスンシオンへ戻り、ミンガグアスへ行き、そこでその地域の五十校に対して苗木を贈呈した。そこにおいて、日本の学生たちは、地域の中高生やその市の職員たちと植樹を行つた。

この地において、財団の副会長である佐野道准氏は、『我々の団体はパンタナールの保護に尽力しており、それ故毎年、この地域の植樹をしており、アルト・パラグアイ州の住民、特に原住民のコムニティに対し、社会奉仕活動をなしております。そこの3箇所に学校建設をなしてきました。』と語り、更に、国の将来はその国の青年たちを如何に教育していくかにかかるつております。ミンガグアスに来て植樹活動をする理由は、青年たちが環境に感謝し、尊重し、保護することを学ぶためであります。』とミンガグアスの市の職員や学生たちに対するスピーチの中で述べた。

我々の国を訪れた学生は藤原周平、渡辺尚孝、森川修啓、木口泰孝、池口興樹、石村聰史、田中国隆、山上園誉、富里情美、小舛利奈、加藤晴香、石田佳代そして、日本の団体より事務局長の柴沼邦彦氏と副会長の飯野貞夫氏が同行した。

**アメリカの会員への報告会**（十月三日）  
 アメリカに在住する神山会長始め、南北米の会員の方々に第十回国際協力青年奉仕隊の活動をパワーポイントで柴沼事務局長が報告をしました。参加者は二十名ほどでしたが参加した青年達のボランティアに参加した感想に特に感動したとの感想が多く寄せられました。

参加者の中には既にシニアボランティアとしてレダ開拓に参加した会員も多く、また今回参加した青年と同じ年代の子供達をも決定しました。



## 第十三回 ピースライフセミナーの御案内

一雨ごとに秋深くなっていますが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。

国や世界に向かうべき私達自身あるいは私達の家庭がどのような方向性、理念を持つてさまざまな問題に取り組み、対処していくかは誰にとっても重要な課題であると思います。このような時私達は「価値ある生き方」「実在な生き方」を深く知つて行動で生きるようにしたいものです。

第十三回ピースライフセミナーで「自分の人生」と「世界の環境問題」を見つめなおしてみませんか。新しい本来の自分を発見し、希望ある未来を実現したいと願われる皆様のピースライフセミナーへの積極的なご参加を心からお待ちしております。

☆開催日時 平成二十二年十一月四日（土）～五日（日）

### プログラム

講義 「人生の目的と価値」 柴沼邦彦先生

講義 「パンタナール開発と保全」 高津啓洋先生  
「Rev. Moonとの出会い」 櫻井設雄先生

活動報告 「南北米福地開発協会の活動について」

☆開催場所 川崎市民プラザ

詳しくは事務局に

地球家族として  
自然を守りましょう

## 南北米福地開発

### 協会会員の募集

南北米、パラグアイ、パンタナール地域へのエコツアーナラビに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとして、世界に環境保護の大切さを訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。

また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

## 南北米福地開発協会 事務局

〒二一三一〇〇〇一  
神奈川県川崎市高津区溝口三一十一十五  
岩崎ビル四F

### 電話

〇四四一八一九一一八二一  
八二九一二八二〇

### Fax

一〇一八〇一七七六八〇四七一  
郵便口座

### 会費納入

代表 柴沼邦彦  
E-MAIL office@asd-nsa.jp  
ホームページ <http://www.asd-nsa.jp>



第十回国際協力青年奉仕隊に参加し、東京近郊に住んでいる隊員が六名、南北米の事務所に集まり、活動中に各自が撮った写真を交換し、活動中の思い出を語がら、笑いの絶えない交流の時を持ちました。

活動から帰り、多くの友人に南米での体験を話す中で、是非、次回の奉仕隊に参加したいと希望する友人が多く出ていました。このこと、より充実した内容を計画しようと決意を新たにしました。